

会 議 録

会議名	平成29年度第6回図書館協議会		
事務局	図書館		
開催日時	平成29年11月13日(月)午後2時～4時		
開催場所	市役所第2庁舎6階 602会議室		
出席者	委員	田中 幸夫、藤森 洋子、大友 敬三、鴨下 万亀子、石田 静子、水谷 多加子、吉田 和夫、坂野 勝一、中里 成子	
	欠席者	長田 秀一	
	事務局	山本教育長、西田生涯学習部長、西村公民館長、菊池館長、岡本奉仕係長、池内主事、栗栖主事	
傍聴者の可否	可	傍聴者数	0
傍聴不可・一部不可の場合はその理由			
会議次第	<p>1 第15期小金井市図書館協議会委員委嘱伝達式</p> <p>(1) 委嘱状伝達</p> <p>(2) 委員紹介</p> <p>(3) 事務局紹介</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 協議会会長互選及び職務代理指名について</p> <p>(2) 小金井市の図書館の概要について</p> <p>(3) 「小金井市の図書館の在り方について」(諮問)</p> <p>3 報告事項</p> <p>(1) 平成29年第3回市議会定例会報告</p> <p>(2) 「第3次小金井市子ども読書活動推進計画」進捗状況</p> <p>(3) 本館空調設備改修工事の進捗状況について</p> <p>4 その他</p> <p>5 配布資料 ※は新規委員のみ配布</p> <p>(1) 小金井市図書館協議会条例</p> <p>(2) 第15期小金井市図書館協議会委員名簿</p> <p>(3) 小金井市の図書館 平成28年度版</p> <p>(4) 小金井市図書館運営方針 改訂版 ※</p> <p>(5) 第3次小金井市子ども読書活動推進計画 ※</p> <p>(6) 第3次小金井市生涯学習推進計画 ※</p> <p>(7) ようこそ小金井市立図書館へ</p> <p>(8) 図書館だより 第42号</p> <p>(9) 月刊こうみんかんNo.473～475</p> <p>(10) 東京の文化財 第123号</p> <p>(11) 東京文化財ウィーク2017(通年公開ガイド)(特別公開・企画事業編)</p>		

平成29年11月13日

【菊池館長】 皆さん、こんにちは。図書館長の菊池と申します。本日はお忙しいところ、平成29年度第6回図書館協議会にお越しいただきましてありがとうございます。

本日は、第15期図書館協議会の最初の会議でございますので、会議が実質的に始まるまでは、私が司会進行役を務めさせていただきます。議事が始まりましたら交代をさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

初めに、いくつか確認をさせていただきたいと思います。着座で失礼いたします。

まずは、会議録の作成用に録音をさせていただきますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【菊池館長】 ありがとうございます。

次に、配付資料の確認をお願いいたします(資料確認)。

【菊池館長】 では、これから次第に沿って進めさせていただきます。

まず初めに、次第1、第15期小金井市図書館協議会委員委嘱伝達式を行います。教育長の山本修司より、図書館協議会第15期の委員になられた方々へ委嘱状の交付をいたします。任期につきましては、平成29年11月1日から平成31年10月31日までの2年間となっております。

本日配付いたしました名簿の順番にお名前をお呼びいたします。教育長がお席まで伺いますので、そうしましたらお立ちくださいますようお願いいたします。

なお、名簿につきましては、小金井市図書館協議会条例で定められています委員区分の順番で、また、同一区分の場合は五十音順で作成させていただいておりますのでご了承ください。

本日は、長田委員からご欠席というご連絡をいただいておりますのでご報告をさせていただきます。

それでは、よろしくをお願いいたします。

(委嘱状交付)

【菊池館長】 ありがとうございます。本日ご欠席の委員の方には別途送付させていただきます。

それでは、教育長からご挨拶をさせていただきます。

【山本教育長】 皆さん、こんにちは。教育長の山本でございます。ちょっと腰を痛めておじぎをする角度が非常に低くて失礼いたしました。歩くのがやっという状況です。

第15期小金井市図書館協議会委員をお引き受けくださいます。本当にありがとうございます。お二人の方が新規、残りの方が継続ということをございまして、こちらから諮問として、小金井市の図書館の在り方についてということをご協議いただいておりますけれども、来年の3月を目途に答申いただくということですので、よろしく願いいたします。

今、スマホ時代で活字離れということで、電車の中で本を読んでいる人をほとんど見かけないという、本屋さんがどんどん潰れていったり縮小していったりする、そういう世の中になっています。これは日本ばかりじゃなくて世界中がそういう状況の中で、子供たちが朝読書などで本を読んでいますけれども、実質的には子供たちの読書量も減っているんじゃないかと私は心配しているところです。これは人類の危機と言ってもいいんじゃないかなと思っているんですけれども、そういう状況の中で、図書館の果たす役割というものは、時代の変遷はありますけれども、変わらないもの、非常に重要な意義を持つものであると思っております。

図書館については、毎回市議会で、私と部長と図書館長の3人が色々な質問を受けております。それで、いつできるんだ、市民の要望に応えないのかというような厳しいご質問をされるんですが、そのたびに我々は、現在、図書館協議会の中で真剣に今後のあり方について検討しておりますという答えをするのが精いっぱいですが、実質的に、平成33年に新庁舎ができ上がりまして、同時に福祉会館ができ上がりまして、図書館を建設するとするならば、そのころに具体的な計画ができて、できるだけ速やかに図書館を作れるというふうには私は個人的に非常に期待しているところなんです、公の場ではなかなか言えない状況です。というのは、どこにつくるかということもまだ定かではない、それから、どのぐらいの財政規模でつくるのかということも、市の方針として定まっていないということです。

その時に、皆さんに今ご協議いただいている図書館協議会のこの答申というものが非常に大きな意味を持ってくると思っております。市民が待望して久しい、小金井市にふさわしい新しい図書館をどのように作っていくかということは大きな課題ですので、ぜひとも皆さんのそれぞれのお立場からのお知恵をお借りしたいと思っております。

答申が出るまで短い期間でありますけれども、大変かと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

【菊池館長】 ありがとうございます。

続きまして、生涯学習部長の西田からご挨拶申し上げます。

【西田生涯学習部長】 皆さん、こんにちは。ほとんどの方が前期から引き続きという

ことで、既に図書館の在り方について議論を進めていただいているところかと思えます。

実は先日、10月31日に図書館に先立ちまして、公民館の在り方というものが既に公表をされております。次回の三者合同会議が今月末ごろに開催予定となっておりますが、そういったところでも、皆様に公民館の在り方につきましてはお披露目をする機会があるのかなと思ってございますけれども、現在、図書館及び公民館につきましては、非常に大きな話題として市議会でも取り上げられているところでございます。

なぜこんなに大きな話題になっているかという、いわゆる社会教育、生涯学習を含む公民館、図書館というものは、今、非常に岐路に立たされているということでご理解をいただければ幸いかと思えます。私も、色々なところの図書館並びに公民館、生涯学習施設、色々と拝見させていただいていますが、本当に皆さん知恵を絞ってやっていらっしゃる。これは小金井市に限らず、全国どこでもですけれども、やはり問題はお金がないということなんですよね。立派なものを建てればいいんですけれども、では、無尽蔵に税金を使っていいものを建てていけばいいのかというと、そういう状況にはどこの市町村もないというのが今の現状でございます。

やはり、そういったところも踏まえて、立派な大きなものをつくれればいいんだという状況ではないこともあるということは、私は、本当に色々な市を見て実感をしているところでございます。本当に工夫が必要だと思っておりますが、ただ、今の図書館本館の状況を見るにつけ、このままでいいのかという話も同時に考えなければいけないとも思っております。こういった税収が上がっていかないような世の中で、どういうふうに皆さんのサービスを充足していただくのか、ぜひ皆様のお知恵を拝借できればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【菊池館長】 ありがとうございます。

次に、本日、初回でございますので、委員の皆様の自己紹介をお願いしたいと思います。委嘱状を交付させていただきました順番でお願いをしたいと思います。

大友委員からよろしくお願いいたします。

【大友委員】 東中学校校長の大友と申します。よろしくお願いいたします。

【鴨下委員】 小金井子ども文庫サークル連絡会から来ています鴨下といいます。よろしくお願いいたします。

【石田委員】 社会教育委員の会議から来ました石田静子でございます。母体は国際ソロプチミスト東京一小金井でございます。よろしくお願いいたします。

【水谷委員】 こんにちは。水谷と申します。小金井市立小中学校PTA联合会から出向としてまいりました。東中学校でPTA会長をさせていただいております。よろしくお

願いいたします。

【田中委員】 5号委員、学識経験者ということですのでけれども、今回で3期目になります。農工大のほうから学識経験者ということで、図書館に関しては、果たして学識経験者かどうかはわかりませんが、縁あって3期させていただいています田中といいます。よろしく願いいたします。

【吉田委員】 失礼します。吉田和夫と申します。現在、玉川大学教師教育リサーチセンターというところで教員養成の仕事をしています。あと、社会教育委員として、町田で委員会の議長というのをやらせていただいたので、社会教育については多少わかるかなと思いますが、図書館についてはまだまだでございますので、どうぞよろしく願いいたします。

【坂野委員】 坂野勝一でございます。よろしく願いいたします。公募市民で参加しております。今期で2期になります。3年半前に、図書館と全く関係ない民間会社を退職しまして、現在は、英語教室で講師をやっております。図書館委員に応募したのは、図書館に非常によく行っておりますからでして、自宅に近い貫井北分室には、開所以来、おそらく300回を超えてお世話になっているということで、少しでも恩返しできればと思っております。よろしく願います。

【中里委員】 公募委員の中里と申します。よろしく願いいたします。3期目になりましたけれども、まだまだわからないことが多く、皆様にご指導いただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

【藤森委員】 藤森と申します。よろしく願いいたします。3期目になりますが、やはり今までの2期、皆様のお力で何とかついてこられたという状況で、これからも皆様のお力をおかりして、協議会のお仕事を務めさせていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

【菊池館長】 ありがとうございます。

以上で、委員の方の自己紹介は終わりましたので、続きまして、図書館の事務局側の職員体制をご紹介させていただきます。

事務局を担当しております図書館庶務係の栗栖でございます。

【栗栖主事】 庶務係の栗栖です。よろしく願いいたします。

【菊池館長】 奉仕係長の岡本でございます。

【岡本奉仕係長】 奉仕係長の岡本です。よろしく願いいたします。

【菊池館長】 本日の報告にあります第3次子ども読書活動推進計画を担当しております、児童担当の池内でございます。

【池内主事】 本館の児童担当の池内と申します。よろしく申し上げます。

【菊池館長】 合わせまして、図書館に人事異動がございましたので、こちらでご報告させていただきます。

図書館の庶務係長でございました西村ですが、11月1日付で公民館長に着任いたしましたので、ご挨拶をさせていただきます。

【西村公民館長】 西村です。4年と7カ月、大変お世話になりました。急な人事異動で、皆さんにはご挨拶が。この場でお時間をいただいたのですが、色々な思い出もありますし、また、色々な勉強をさせていただきました。今度は公民館、同じ生涯学習部ですけども、公民館で館長を務めさせていただきます。図書館での経験を生かして頑張りたいと思いますので、よろしく願いいたします。本当にお世話になりました。

【菊池館長】 最後に、私、図書館長の菊池です。庶務係長を兼務いたしますので、よろしく願いいたします。

以上で事務局の自己紹介を終わらせていただきます。

ここで、教育長、生涯学習部長、公民館長は、次の公務がございますので、誠に失礼ではございますが、退席をさせていただきたいと思っております。

【山本教育長】 では、よろしく申し上げます。

(山本教育長・西田生涯学習部長・西村公民館長 退席)

【菊池館長】 本来ですと、司会なので、前のほうに座らせていただくのですが、少々場所が狭いので、こちらでこのまま失礼させていただきたいと思っております。

それでは、これから議事に入ってまいりますけれども、まず、議事録の作成方法につきまして確認をさせていただきたいと思っております。

市の会議につきましては、小金井市市民参加条例の定めるところにより、原則公開となっております。また、同条例の施行規則により、会議録の作成方法は、全文記録、発言者の発言内容ごとの要点記録、会議内容の要点記録の3つの中から選択することと定められております。

本会議につきましては、これまで全文記録にしてございますので、事務局といたしましては、引き続き全文記録を作成していきたいと考えておりますが、これにご異議はございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【菊池館長】 では、ご異議がございませんようですので、そのようにさせていただきます。

それでは、これより本日の議事に入ります。

次第2(1)協議会会長互選及び職務代理指名についてでございます。本日は、第15期図書館協議会の初回になりますので、まだ会長、それから職務代理者が決まっておられません。会長が決まるまでの間、私が引き続き司会進行を務めさせていただきます。

では、早速、会長を選任したいと思います、会長につきましては、小金井市図書館協議会条例第5条第2項により、委員の互選によって定めとなっております。したがって、互選の方法につきましては、指名推薦により行いたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【菊池館長】 では、指名推薦とさせていただきます。どなたか適任と思われる方がございましたら、ご推薦をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

吉田委員。

【吉田委員】 何とんでも田中委員をお願いしたいと、引き続きぜひお願いします。

【菊池館長】 ありがとうございます。ほかの方ございませんでしょうか。

(「賛成」の声あり・拍手)

【菊池館長】 ありがとうございます。

それでは、前期も会長を務めていただきました田中委員という声が上がって、賛同の声をいただきました。ご異議がないようですので、田中委員を選出することと決定いたしました。ありがとうございました。

それでは、田中委員は会長席にお着きいただき、就任のご挨拶をお願いいたします。

【田中会長】 ただいまご指名をいただきました田中です。前期も会長をさせていただきましたけれども、推薦いただきましたので、謹んで会長職を受けたいと思います。

昨年、前期からの引き継ぎ事項、小金井の図書館の在り方ということが引き続き諮問されておりますので、この問題をまず答申できるように皆様のご協力をいただいてやりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

では、職務代理者という方を決めなければいけないということです。これは会長の指名ということになっているそうですので、私からご指名させていただきたいと思います。

先ほども申しましたけれども、前期からの委員の方が8名、新しい方が2名ということと、あと、前期からの引き継ぎ事項であります小金井市の図書館の在り方の諮問をいただいて、その答申を今まで作ってきて、継続審議ということをやっていますので、職務代理者も継続ということで、大変だと思うんですけども、藤森さんをお願いしたいんですけども、よろしいでしょうか。

(拍 手)

【田中会長】 それでは、私がない時は藤森さんがやるという、職務代行者ということで、皆さんからご賛同をいただきましたので、藤森さん、お願いいたします。

【藤森委員】 藤森でございます。引き続きということでお受けいたしますが、実際は何のお役にも立てていないと思っております、今度もそんなにお役に立てるとはとても思えませんけれども、引き続き、田中会長の少しでもサポートができるように頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

【田中会長】 ありがとうございます。

それでは、この次第に従って会議を進めていきたいと思っておりますけれども、議題の1が終わったところでございますけれども、議題の2をやって、議題の3は最後のほうがいい、時間がかかるかもしれませんので、進めたいと思います。2をやります、報告事項をやって、また議題に戻るということでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、最初、議題（2）の小金井市の図書館の概要についてということで、図書館からご説明をお願いいたします。

【菊池館長】 本来ならば、改選後の第1回でございますので、事務局から小金井市の図書館の概要について、一から全部ご説明をさせていただくところでございますが、10名の委員のうち8名の方が14期からの再任ということもございましたので、新規委員の方には、私から個別に図書館の状況等をご説明させていただきました。

本日、緑色の表紙の小金井市の図書館（平成28年度版）を配付させていただきました。もっと早い時期にお配りをさせていただくべきところだったのですが、今年も大変遅くなってしまって申し訳ありませんでした。実は先ほど仕上がってきたばかりということですので、ご覧いただければと思います。

内容は、28年度の図書館概要と事業統計資料になってございます。毎年作っているものの更新版でございます。皆さん、今日初めてお目にするところですので、ご質問等をこの場でいただくのは難しいと思います。何かございましたら、また事務局に言っていただければ、次回にでもお答えをさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

説明は以上になります。

【田中会長】 何かご質問等ありましたら、あまり細かいことを一々聞くのは大変だと思うんですけれども、何か気がついたこととかありましたら、お名前を言って発言をしてくださると助かると思います。

では、また気がついたら、図書館へご質問等なりをしていただくということで、図書館の概要については終わりたいと思います。

それでは、協議会次第の報告事項の1、平成29年度第3回市議会定例会報告ということで、事務局からご報告をお願いいたします。

【菊池館長】 平成29年第3回市議会定例会が8月31日から10月5日に開かれましたので、図書館に関する部分をご報告させていただきたいと思います。

まずは、一般質問からでございます。お二人ございまして、渡辺大三議員からは、新市庁舎の床面積を現状と同程度に据え置くことで、追加の財源がなくても、図書館本館の床面積を大幅に増やして建て替えることが可能になるということでご質問をいただきました。

こちらにつきましては、他部署も答弁しているところですが、生涯学習部としましては、図書館の現状と、現在、図書館協議会に図書館の在り方を諮問中であり、協議をいただいているとご答弁しております。

もうお一方、坂井議員からは、音訳ボランティア団体が視覚に障害のある方向けに作成している声の情報誌「こだま」というものがあるんですが、こちらをもっと周知して利用してもらってはどうかというご質問でございました。

答弁といたしましては、本年度、音訳点訳ボランティアの方が中心となりまして、視覚障害者の皆様へというチラシを作成しましたので、自立生活支援課の窓口にかけていただいで周知に努めているとお答えしております。

続きまして、予算特別委員会です。図書館からは、協議会委員報酬4回分を補正予算計上いたしまして、ご議決いただいております。

続きまして、決算特別委員会です。平成28年度の一般会計歳入歳出決算について質疑等がございました。図書館に関するものとして、委託館の事業成果や図書館の司書職の配置について、また、資料の選書方法について、そして、ここ数年の図書費の推移についてご質問等がございまして、ご答弁させていただいております。

次に、厚生文教委員会です。図書館から2件、行政報告をさせていただきます。9月1日から図書館本館が空調設備等改修工事のために長期休館していること及び第14期の皆様にもご協力いただきました図書館貫井北分室、東分室の事業運営委託の結果についてをご報告させていただきました。

雑ぱくですが、議会報告は以上になります。

【田中会長】 ありがとうございます。ただいまの議会報告についてご質問等ございましたらお願いいたします。

最初に一般質問のところ、渡辺大三議員から、今の図書館より広い面積で建つんじゃないかという試算みたいなものを出されたということなんですけれども、それに対する反応というか、反響というか、あるいは市側というのはどのような反応だったんでしょうか。

【菊池館長】 生涯学習部からは、先ほどのようなご答弁をさせていただいています。ほかの部局からは、今現在、市庁舎建設予定地、蛇の目跡地と申していますけれども、そちらのほうに、新市庁舎と福祉会館ということで建設に向けて準備が進められているということでございます。各課につきましても、どこの部署も、皆それぞれ、その目標に向かって進んでいますというところのご答弁でさせていただいているところで終わっております。

【坂野委員】 関連して渡辺議員の発言の件ですけれども、前回は数字で3,000平米とおっしゃっていましたが、今回は特に数字は挙げられていなかったのでしょうか。

【菊池館長】 質問事項の中には、3,000平米規模の図書館本館が確保できるのではないかというふうなご質問をいただいております。

【石田委員】 候補地は特に具体的にありますか。

【菊池館長】 この時の議員のご質問では、庁舎と福祉会館のことでしたので、蛇の目跡地ということでお話しされておりました。

【石田委員】 図書館の候補地は、特に挙げていないんですか。

【菊池館長】 ないです。

【鴨下委員】 新庁舎の蛇の目跡地の計画図が出ましたね。私、見せていただいたのですけれども、新庁舎と新福祉会館の建設予定地があって、そして、今、リサイクルセンターがあるところは、ゆくゆくは移転するそうですが、すぐには移転できないので移動するみたいです。そこに大きな駐車場、100台ぐらい入る駐車場を作るとか、あと、前に広場があるとかというような計画が出ていると思いますが、やはり、その中に、ゆくゆくは図書館を入れるスペースがあるのかどうか、ぜひ検討していただきたいなと思います。

私としては、駐車場が暫定の駐車場じゃなくて、きちんとした駐車場ができる時に、駐車場を上を上げて、1階、2階、3階あたりを図書館にするとか、広場だと、市庁舎の前の部分が図書館になってしまうので、どうなのかなとか思っているのですが具体的に出てきていますので、教育長が市庁舎建設完了の頃に、図書館を具体的にと言えないけれども考えていらっしゃるからおっしゃっていましたが、それを考えると、やはり図書館としても、そこにどういうふうに図書館を設置できていくのかというような内々の検討もしていったほうがいいのではないかと、その図面を見て思いました。ご検討のほど、よろしく願いいたします。

【菊池館長】 今のご意見はご要望として承っておきたいと思います。ありがとうございます。

【田中会長】 議会報告について、そのほか何かございますでしょうか。

では、報告事項（２）に参りたいと思います。第３次小金井市子ども読書活動推進計画の進捗状況について報告をお願いいたします。

【池内主事】 本館児童担当の池内と申します。第３次小金井市子ども読書活動推進計画進捗状況について報告をさせていただきます。

進捗状況は事前にお配りしました資料をご覧ください。もし、今、進捗状況をお持ちでない方がいらっしゃいましたら、資料をご用意してありますので、お声がけください。

【菊池館長】 A３判の大きなものもご用意してございます。

【水谷委員】 この資料に関しては、A３サイズでのプリントアウトが自宅ではできないので、配付していただくとありがたいと思います。とても小さくなってしまいますから。

【菊池館長】 申し訳ありません。

【池内主事】 それでは、ご説明させていただきます。

初めに、第３次小金井市子ども読書活動推進計画の概要を説明させていただきます。小金井市子ども読書活動推進計画とは、子供の読書活動に関する施策の計画的な推進を図るために作成しており、現在、３回目の計画を推進中でございます。

平成１３年の子ども読書活動の推進に関する法律を受けて、平成１６年に第１次計画を、そして平成２１年に第２次計画を、５カ年計画ということで策定していました。第２次計画は２年間延伸をして、平成２７年度まで実施しました。

第３次の計画は、国と東京都の内容を参考としたほか、小金井市の教育委員会の教育目標及び方針の内容を踏まえて、図書館と関係１０課と庁内検討委員会作業部会を開催して策定しました。

関係各課が図書館を含めて１１課ございまして、同じ生涯学習部から生涯学習課、公民館、学校教育部から庶務課、学務課、指導室、福祉保健部から自立生活支援課、健康課、子ども家庭部からは子育て支援課、保育課、児童青少年課が参加しています。事務局は図書館でございます。また、パブリックコメント等で市民のご意見をお聞きしたほか、図書館協議会の中でご意見を伺う機会やご検討いただく機会を設けさせていただいております。

第３次の推進期間は、第２次計画終了後の平成２８年度から平成３２年度までの５年間としています。第３次小金井市子ども読書活動推進計画は、平成２８年度から開始したため、進捗状況については今年度が初めてでございます。

進捗状況とは、１年間、子ども読書活動推進計画の中でやってきたことの実績報告です。毎年１年１年実績を上げて進捗の管理をし、図書館のホームページにも載せていく予定で

す。

進捗状況の一番上の欄をご覧ください。第3次小金井市子ども読書活動推進計画の事業一覧表の63項目について記載しており、取り組み、施策項目、取り組み内容まではそのまま計画から転記しております。所管部署、平成28年度事業実績、平成29年度事業実績予定、平成29年度に向けての方向性に関しましては、昨年度と今年度、関係各課と調整の上、進捗状況を作成しました。

第2次と大きく違っておりますのは、第2次は、その年度の目標を充実、継続、実施済みのような言葉で示すとともに、その横に事業実績を文章で述べた形になっておりましたが、第3次は、事業実績については、できるだけ数値で記載し、残りは言葉で補うという形で回答し、方向性の中で、事業実績を踏まえて、次にどうしていくのかという振り返りを行っております。

さらに、個別に説明をさせていただきます。平成28年度事業実績につきましては、昨年度実施した事業について、内容と実績は同じ欄に掲載しています。平成29年度事業実績予定につきましては、取り組み内容に合った今年度の事業の実施予定を掲載しています。昨年度と今年度で、事業実績の内容を変更した箇所もございます。

平成29年度に向けての方向性につきましては、平成28年度の事業実績を踏まえての平成29年度実施予定の内容についての方向性を記載しており、実施事業の課題と改善に向けての内容も含めて記載しました。

スケジュールについてご説明をさせていただきます。今年度は、6月に関係各課に回答を依頼し、8月に庁内検討委員会を開催、第3次小金井市子ども読書活動推進計画進捗状況の確認を行いました。また、今回の図書館協議会で報告後、図書館ホームページでの掲載を予定しております。来年度も今年度と同様のスケジュールを予定しております。

簡単ではございますが、説明は以上となります。何かご意見やご質問等ございましたら、お願いいたします。

【菊池館長】 補足をさせていただきます。第2次まではもう少し早い段階で皆様にご報告をさせていただいたかと思えます。第3次からは数値で埋めていこうということがございましたので、前年度の統計が出そろったころ、6月ごろに各課にそういった関係上、全体的に仕上がってきたのが遅くなってこの時期ということでございます。

【田中会長】 ありがとうございます。進捗状況について、項目の一つ一つの状況が書かれてありますけれども、何かご質問等がございましたら。

【吉田委員】 どこで見ればいいのかかわからないですけれども、この頃デジタル版の本とか出ていますよね。そういうふうなものについてというのはどこかに書かれているんで

しょうか。

【池内主事】 電子書籍は今のところ予定しておりません。

【吉田委員】 さっき教育長もおっしゃっていたけれども、今結構、携帯とかデジタル系で読んでいる人が多いんですね。というよりも、ほとんど読書がそちらのほうが強くなっていると思うんです。それから大人も、どちらかというとKindleとか、そういうふうなもので読む人達が増えているので、この対応というのを小金井市としても考えていく必要があるんじゃないかなということは思っています。

【菊池館長】 そうですね。子供だけということではなくて、利用者全体に対して電子図書というのはこれから進んでいくと、考えていかななくてはいけないものかなということをおもっています。ほかでもご質問いただくことがございまして、図書館としてもいずれは取り組んでいきたいというふうに思っておりますけれども、まだ方向性とかそういういったものが見えていないのが現状でございます。

【鴨下委員】 32項の学校図書館の整備ですけれども、担当は指導室になっている内容ですが、学校への補助員の配置について、小金井は各校週2回ということになっていますが、近隣では週5日、子供が在籍している時間は在籍しているというような配置の方向に向かっていると思います。予算措置のことで教育長にも色々言われますけれども、ぜひ、だからだめだということではなく、前年度の配置日数を確保していくという消極的なことではなくて、やはり配置数を増やしていただきたいなという要望があります。

【池内主事】 指導室に申し伝えておきます。ご意見ありがとうございました。

【石田委員】 52番の貫井北分室のサポーターミーティング、具体的にミーティングってどういうことをするんですか。28年度実績で実施回数が9回で参加人数54人って書いてありますが、どのようなミーティングですか。指導者、読書のサポーターということの意味は。指導者を養成するためのサポーターなのか、ただ、ヤングに対してミーティングのサポートをしているのか。

【池内主事】 YAサポーターミーティングの対象年齢が小学校高学年から25歳ぐらいまでで、公民館との連携事業となっています。

【石田委員】 25歳まで？

【池内主事】 25歳までです。

【石田委員】 6年生ですよ。五、六年生。

【池内主事】 五、六年。9回行ってございまして、内容はYAのコーナーテーマ展示の準備や、図書館の福袋の作成や、若者コーナーの装飾や百人一首カルタ会の準備や運営などを行っているようです。

【水谷委員】 今のご説明からしますと、そのサポーターという人達の役割としては、貫井北の図書館をもっと若い人達が使いやすいように企画を手伝っていただいたり、実際に装飾と一緒にやっていただいたり、図書館を応援してくれる人達、サポーターという位置づけでよろしいのでしょうか。

【菊池館長】 貫井北分室自体がYAサービスに力を入れているところでございまして、委託館ですけれども、公民館も同じNPOに運営委託しているということで、1階が図書館、2階が公民館なんですけど、上下で連携を図りながら色々な催しをしています。YAサポーターというのは、子供が多いんですけども、図書館をバックアップしてくれるチームを作りまして、いろんな行事に支援していただいているところでございます。

【水谷委員】 貫井北以外ではそういったサポーターを導入するというようなことは検討には上がっていないのでしょうか。

【菊池館長】 貫井北以外に本館でもYAコーナーがございますし、緑分室でも最近、YAコーナーというのを作りました。東も作っていますが、なかなかサポーターを養成していくというか、サポーターのメンバーを集めてYA事業を進めていくというところまではまだ至っていないのが現状です。

【鴨下委員】 このサポーターになってほしい方は公募しているんですか。

【菊池館長】 今資料を持っていないんですけど、そういう形で集めているはずですよ。サポーターになりませんかということでお願いしているはずですよ。

【鴨下委員】 ありがとうございます。

【坂野委員】 10番の項目で、事業実績欄のところはホームページ更新回数という統計になっていますが、閲覧回数、いわゆるカウンターがホームページに備わっていて、それを比較するということができますか、できませんか。

【岡本奉仕係長】 ホームページの来訪カウンター機能は、一応はついているみたいで、それを初め、ホームページを作成する時に、変な話なんですけれども、業者から提案がなく、そのままずるずる来て、大分たってからそういうカウンター機能があるということにこちらが気づき、この機能を今さらホームページ上にあらわすのもどうなんだろうというところで、申し訳ないんですけど、今、その機能は使っていないような状況なんです。

【坂野委員】 提案になってしまいますけど、ここでは今子供の話ですので、子供のページというのを作って内容を子供向けに充実させる、そのカウンターをとっていただいて、どれぐらい見られているかということを検証していただければなと思います。私は結構ほかの図書館のページを見るんですけども、小金井の図書館のは見つけにくいですが、あちこち探してやっと行き着くんで非常に見つけにくいですが、子供のことを考えもつと

充実させていただければ、子供は操作にすぐに慣れて大人以上にスムーズですので、それで利用回数統計をとっていただければいいのかなというふうに思います。

【水谷委員】 関連ですが、ホームページの閲覧カウンターは、必ずしもホームページ上に出ていなくても機能としてついているわけですから、途中からそれをプラスするのが変ということであれば、実績だけでもちゃんと把握して、上がったのか下がったのか、そちらは評価していく必要があるかと思えます。

【岡本奉仕係長】 ありがとうございます。

【田中会長】 そのほか何かございますでしょうか。

【水谷委員】 不勉強で申し訳ないんですが、全体の項目として、28年度事業実績というのがございまして、その右に平成29年度事業実績予定となっておりますが、実績の予定という表現が何か変だとは思いますが、一番最後の第4章のみが実績目標という表記になってございます。目標というのであれば、28年度実績が、例えば1番であれば995冊のところを1,000冊にいたしますとか、そういうものが実際目標という位置づけになるかと思うんですが、その2点についてお聞かせください。

【池内主事】 平成29年度事業実績予定と目標と2つ記載をさせていただいてあるんですけども、正しくは平成29年度事業実績予定が正しい表記でございます。理由としましては、29年度の実績が、今の段階では少し変更させていただく可能性がございますので、予定とさせていただいております。29年度の確定数値が出ますのが、出納閉鎖期間が終了してからになりますので、平成30年の6月以降になるため、事業実績予定という表記とさせていただいております。

【菊池館長】 今の段階で29年度予定というのは、もう大分後半に迫っていて、予定というのがおかしな話というふうに見られてしまうかなというところがあるんですけども、実際、各館でこちらを作りましたのが6月ごろということですので、28年度の実績を踏まえて29年度はこうしていきたいということで、このようなタイトルになっております。

【水谷委員】 実施回数というのは実績予定とは違うと思うのです。中に入っている項目を見ると、これで評価いたしますというような目標数値と読めるのですが、挙げているタイトルと中身が合っていないというところがおかしいのではないのでしょうか。この冊数で評価いたしますというような、そういう意味合いで挙げてらっしゃるかと思うんですけど。

【石田委員】 実績というのは積み上げたものに対して使う言葉であって、これから予定する事柄に使う言葉ではないのではないかと水谷さんはおっしゃっている気がするんで

す。

【水谷委員】 うまく言えなくて申し訳ありません。

【石田委員】 と私は質問を解釈したんです。だから、29年度はこれからやってきますよということだから、実績という言葉がなくて、目標とか、そういうことでよろしいのではないかなど。言葉の使い方ではないかなという気がするんですね。

【菊池館長】 事務局のほうで混乱してしまして申し訳ありません。そこをもう一度見直ししたいと思います。

【吉田委員】 結局、実績とか評価の問題だと思うんです。その実績がどうだったのか、それによってこの取り組みがどうだったのかというものを評価として本当は出さないといけない。ですから、そういう意味では、学校なんかも指導と評価の一体化みたいなことを言っていて、指導がどこまでちゃんと狙いが明確になって、それがどこまで達成できたのかを評価するということが言われているわけですから、やっぱりそれぞれの項目について、これだけ詳細な項目をつくられているので、一体これが、29年度の実績はこうだったって言うのではなくて、その目標とかいわゆる予定、あるいは方向性に対してどんなふうな実績で、その評価はどうだったのかっていうのを出すべきなんじゃないかなというふうにちょっと思うんですけれども、それはどうなんですか。なかなか難しいんでしょうかね。

【菊池館長】 これを作った時に、普通、計画というとPDCAサイクルなので、目標を立てて、実績見て評価して、次年度どうしていくんだという、そういう流れで作っていきましようかという話もちろんありました。第2次の際は継続ですとか検討ですとか、そういった形の言葉でついていたので、第3次をつくる時に、そういうふうにつけていったらどうなんだろうっていう話も確かにあったんですが、そういったものではなくて、取り組むべき内容は決まっているので、28年度の実績を見て、また29年度の目標を定めていってというところで押さえていったらどうなんだろうということが庁内検討委員会の話でしたので、こういった形でまとまりました。この形でパブリックコメントもおかけして、でき上がったというふうになっております。

【田中会長】 第3次は28年から始まったんですよね。そうすると、例えば3年終わったら中間の進捗状況に対する中間報告みたいなものをするとかという予定はあるんでしょうか。つまり、全部終わったら大体総括するじゃないですか。何かのプロジェクトが終わりました。そしたら、それがうまくいったのかどうかというのを評価して次のステップに行くということになりますよね。だから2次が終わって3次つくりました。2次のいいところとうまくいかなかったところを踏まえて、多分3次がつくられて、3次は今始まったばかりで、なかなかそう簡単にこれがよかったとかっていうのはできないと思うんで、

ですから中間報告とかそういうことは考えられているのでしょうか。

【菊池館長】 今のところ5年間の計画なので、中間報告というふうには見ていないんですけれども、次、第4次をつくる時に、この3次の結果を踏まえては当然行くことになるかと思えます。

2次も5年間だったんですけれども、それを2年間延伸して使っているんです。その理由は、3次が東京都の子供読書活動推進計画の時期に合わせるということで、東京都のつくりを見てうちの3次を作っているので、若干そこどころが、2次と大分つくりが変わっている形になってきていますので、また4次がどういう形になってくるかという部分もあるんですけれども、その流れでやっています。

【田中会長】 もう一つあるんですけれども、本館が9月1日から半年間閉まるということは、ほとんど下方修正というか、なるんじゃないでしょうか。つまり、実際に開いていないから、いろんなものが開けないので。そういうことを加味して、突然の話だったかもしれないけど、半年間開かないわけですから、事業自体は半分はもうなくなるというふうに考えられるんじゃないでしょうか。

【菊池館長】 行事等に関しては、この休館期間がありましたので前倒し、例えば学校への団体貸し出しですとか、例年休館中に行っているんですけれども、やはりそれは日にちを調整してやるとか、あと、児童の図書の購入先自体は年間を通して変わっていませんし、おはなし会はやはり休館中に行っていないんですけれども、休館中であっても学校訪問事業などもさせていただいています。なので、半分まではいかないで実施はできると思います。

【鴨下委員】 この表の見方ですけれども、平成28年度事業実績というのがあって、その次に事業予定というのが先ほどの話とつながるのですが、これは本当は昨年が995ならここは1,000となるのではないかという質問がありました。そして、次に平成29年度に向けての方向性というのがあるのですが、やはりここにもう一つ評価の欄がないといけないと、おもいます。進捗状況はどうかという欄が1つ必要だと思います。または、29年度事業予定というこの欄をなくして、29年度に向けての方向性の後に29年度の経過みたいなのが必要ではないでしょうか。この表だと、進捗状況がどうなっているのかがよくわからない。これは去年のことがわかればいいという表なのですか。今年の方はまた3月に作るということなのですか。

【菊池館長】 2次の時に過去のものと比較をして作っていたんですけれども、継続、継続、継続ですとか、実施、実施、実施ということで作っていたんです。結果的に、それって何だかわからないよねっていう話になったんです。実施していれば実施、継続してい

れば継続なので、もうちょっとその辺がわかるように書いていこう。できればこういうもので、数字で示したほうがわかりやすいので、数字で示せるものは数字で示していこうと
いって数字を挙げたところが28年度事業実績なんですけれども、ちょっと数字だけでは
なかなか難しい、数字だけをぱんと挙げるだけではなかなか難しいところがあるという意
味で、補足として言葉が入ったりですとか、29年度の方角に向けてというものが入っ
たりとかというところがあります。

【鴨下委員】 わかりました。

【菊池館長】 横に、28、29、30、31、32とずっと5年間並べてもいいんだ
けど、それはちょっと見づらいという話もあったので、今はこういう形になっています。

【鴨下委員】 別件でいいですか。

【田中会長】 はい。

【鴨下委員】 赤ちゃん向けの絵本のリストとか、貫井北ではYA向けのお勧めの本の
リストとか作っていますよね。それをほかの館でもいただけるようにはなっていますか。
本館行った時にもYAのそういうリストがいただけるとか、赤ちゃんリストをいただけ
るとか、そういうふうになっていると、利用者にとってはとても啓蒙になるのではないかと
思います。今そうになっていますか。

【菊池館長】 刷っている部数が委託館の事業なので、あまり全館配布目的では刷って
いないんです。ですので、参考としていただいているんですけれども、いただけるよう
であれば本館にも置いて、配布できれば配布したいと思います。

【鴨下委員】 よろしくお願ひします。

【吉田委員】 さっき少し話したように、指導と評価というのが学校現場で言われてい
ることで、目標管理というのが企業なんかでもあるわけです。ですから、全部が全部数値
にしなくても僕はいいと思うんですけれども、しかし、28年度にこのぐらゐの実績があ
ったから、29年度はこのぐらゐの実績を目標にして、現在の段階ではこのぐらゐです
というような、それこそまさにそれが進捗状況なんだと思うんですね。はっきり言うと、そ
ういうものをなるべく、途中で出せっていうのはなかなか難しいんでしょうけれども、や
っぱり最後終わった段階ではこうだったというのが出ないといけないんだろうなと。それ
に伴って、やっぱり目標を立てて、去年がこうだったから今年はこうなんだろう、それ
に対しては、全部達成できるかどうかわからないけれども、A、B、C、Dみたいな形で
ちっと出すのが目標管理評価じゃないのかなと思うんですけれども。

【水谷委員】 私もそのように、何か評価を入れたほうがいいのではないかと思います。
子ども・子育て会議も傍聴させていただいているんですけれども、あちらではS、A、B、

C、Dというふうに、どの程度できていればS、A、B、Cという目安を立てて、どの程度のできばえだというのを評価していますので、こちらでも同じような形でやっていかれるのがいいのではないかと思います。

これだけの数字をまとめてくださるのは大変なお仕事だったと思います。数値をわかりやすくして下さったというのはとても良いことだと思いますので、せっかくですので、それに対して、やっぱり目に見えやすい形で評価をつけていくのがよろしいのではないのでしょうか。

あと、方向性のところですが、細かいところで申し訳ないんですけども、平成29年度も28年度と同様という表記がざっと並んでいまして、29年度に向けての方向性なので、その文言は要らず、もう少し簡潔にしていいただければよろしいのではないかと思います。

【坂野委員】 別件で質問があります。55番から61番の特別な支援を必要とする子供という関連でいくつか質問があるんですが、これから議論する図書館の在り方に関連して参考に確認させていただきたいんです。57番と61番なんですが、28年度実績を見ると、きりりからの図書館来館数がゼロ回。一番右の記載の方向性を見ると、移動手段、図書館での過ごし方など図書館の利用に向けて検討するとなっています。要するに、57番では人が来ていないということです。61番も人は来てはいるようですけども、方向性のところの記載にあるように、図書館内での対応を職員間で共有しより本人や他の図書館利用者への配慮を随時検討するということです。これらに鑑みれば、新しい図書館をつくる時にも特別な配慮を必要とする子供たちへの配慮として何らかの対応が必要だと思うんです。そこで実際に今の状況で、なぜゼロ回とか利用回数が少ないのか、さらに検討が必要な点は何か、こちら辺ちょっと具体的に話をお聞かせいただける点があれば教えていただきたいんですが。

【池内主事】 まず、57番のきりりからの図書館来館回数ゼロ回なんですけれども、担当課が自立生活支援課なのですが、担当課と今協議しているところで、担当課からは、図書館本館が遠いことと、騒いでしまう子が多いため、事前に準備が必要であるが、事前の準備までは28年度できなかったという報告を受けています。29年度に向けて、どうしたらきりりから図書館に来られるかどうかを検討していきたいと考えています。

61番の図書館内で対応した件数で記載させていただいたんですけども、こちらは学校のご要望を承っております、学校のご希望があれば承っているという件で、少し少なくなっています。

今後、もっと受け入れられるように検討していきたいと考えています。

【菊池館長】 緑分室で今、試行的といいますかやっている事業なんですけれども、中々ほかの利用者の方と一緒に図書館を利用するのが難しいお子さん方、お子さん方も興奮してしまうし、図書館施設も狭いので、ほかの利用者の方もびっくりしてしまうというようなことがあって、今まで利用をしていただくことが難しかったんですが、図書館の休館日を利用して、一般の方はお休みなんですけれども、図書館の休館日に図書館に遊びに来ませんかということでお声がけをして実施したりしていますが、お子さん方の状況もありますので、定期的にとというのは難しい事業になっています。お子さん方の状態もいい時で図書館も休館日ということで、不定期で実施していますので、先生方とは常にコンタクトはとっているところです。ですので、逆にそういった施設に緑分室の職員が読み聞かせに出かけたりということもしている状況です。

【坂野委員】 はい、わかりました。

【田中会長】 そのほか。多岐にわたって色々あって、できたら、先ほど吉田委員のからありましたけれども、昨年度の実績があって、私はこういうふうにしたいという方向性あって、あるいは具体的な数値があって、今はまだ29年度の途中で、しかもこれとったのが6月ということなので、実際に年度が変わって何カ月かしかたっていないわけですから、そこに今の進捗状況を入れるというのは難しいかと思えますけれども、そういうフォームをもう少し考えていただいて、そうすると多分、一般の方が見られてもわかりやすくなるんじゃないかと思えます。

最終的には、私も言いましたけれども、28年度に対して29年度はこの項目に対してよかったのか、非常によかったのか、あまりよくなかったのかというところの年度ごとの評価とか、そういうものもどこかで書けたらいいんじゃないかなと思えますので、少しフォームも考えていただければいいんじゃないかなと思えます。

【菊池館長】 今日は28年度のご報告ということでさせていただきましたので、5カ年計画ということがありますので、次年度以降、また調整させてフォームも含めて検討していきたいと思えます。

【田中会長】 続きまして、報告事項、本館の空調設備改修工事の進捗状況についてお願いいたします。

【菊池館長】 本館ですが、3階の事務室の空調工事が終了いたしまして、地階に移ってました仮事務室が10月23日に3階に戻ってまいりました。ただ現在、まだほかのフロアが工事中でございまして、1階、2階は大分進んで、終了に向かっているんですが、地下は今工事が始まったばかりのところが続いております。市民の皆様には大変なご迷惑をおかけしているところとございまして、ご不便をおかけしておりますが、当初のスケジ

ジュールどおり、来年1月6日の開館に向けて準備を進めております。やはり本館が休館していますので、貫井北をはじめ、緑、東ですとか、利用がかなり伸びているということで、それぞれ対応していただいております。

簡単ですが、報告は以上になります。

【田中会長】 ありがとうございます。何かございますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、報告事項を終わりますけれども、報告事項でその他何か、事務局からございますでしょうか。

【菊池館長】 報告事項は大丈夫です。

【田中会長】 それでは、戻りまして、議題（3）小金井市の図書館の在り方について（諮問）ということで、これを進めてまいりたいと思います。

最初に、もう皆さんのほうには大分前に送られていたと思いますけれども、私の答申案バージョン2というのがありますが、メールで送られているんですね。ない方は…。

【菊池館長】 ない方は予備が事務局にありますので。

【田中会長】 バージョン1からそんなにバージョンアップしていないんです。ほとんどバージョンアップしていないという感じなんですけれども、物の考え方だけをちょっとご説明します。

この答申案の骨子の1番は、やはり中央図書館を建ててほしい、老朽化し狭くなっている今の本館から、新しい中央図書館を設立していただきたいというのが1番に来ております。その中央図書館、本館になるのかわからないですけれども、その中央図書館は現在のものよりも広いものを目指して作っていただきたいということです。

小金井市全体の図書館の在り方ですので、そこで現在ある分室との連携を深めながら、中央図書館を中心としたネットワークを構築しながら、分室は東、北色々ありますけれども、そこつなげてほしいなということです。

もう一つ私が書いたのは、その分室がある、特化したというか、特徴を持った分室のほうがいいんじゃないかなというような考え方で、ミニ中央図書館みたいなのをいっぱい作るんじゃなくて、何かここはちょっと子供向けの本がいっぱい、こっちはヤングアダルトがあるとか、中央図書館は小金井市の大切な中枢部分ですから、そういう資料とかきちんと整えているかなというふうなことを目指したらいいんじゃないかなということをちょっと書いております。

また同時に、そのネットワークが、ここにあります小金井市の資源である小・中であるとか高も含め、そしてまた大学との連携もうまいことできたらいいかなというような思いで、ネットワークを上手に作っていったらいいかなと。他市との関連性も強めていけたら

いいのではないかなと。

最後の3つ目は、運営していく図書館の質とかサービス、そういうものを向上させながらやっていくということ、ソフト面ですよ、そういうところが大切なんじゃないかなというふうに考えて、3つの柱みたいなもので構成されています。

前回もちょっとご指摘ありましたが、言葉の使い方であるとか、そういうところはまだちょっと足りないところもあると思います。直したところもありますけれども、もう一回、行政用語ですか、何かそういう言葉もあろうかと思いますが、皆さんからいただいた思いとか考え方を、一応この中に入れてあるつもりで作ってあります。

同時に、ずっと半年以上話をしてきましたけれども、最初のころ、小金井市の図書館の在り方ということ、図書館側と何回かにわたって話をしてきました、この協議してきた素案というものとうまくマッチできないかなみたいなところで、最初、付録みたいって言ったら怒られちゃったんですけども、資料みたいにしてつけましょかねといったところもあるんですけども、資料じゃないんですよ。これをどうしたものかなということなんですけれども、図書館から、この資料じゃないですけど、一番最初に話していた思いもあるでしょうから、ご発言いただければと思います。

【菊池館長】 事前送付させていただきましたのは、8月28日にお配りしたものと内容的にはほとんど一緒です。数値、更新日が更新されましたので、その部分を入れ替えているところが下線になっています。あと若干、文言を手直しした部分も下線がついています。それとあと、1回目の素案の時から入っていましたアンケートについては、ここで落とさせていただきましたので、章立てがずれているところがあります。

最初の時から答申をいただくということで、事務局側と協議会委員の皆様とキャッチボールをしながら仕上げていきたいと思いますということで、今、11月13日の素案の中身としては、事務局で案をお作りして、毎回協議会でお出ししているところがございます。

計画ではないですけど、そういった章立てになっていますので、中々答申としての体といますか形といますか、あと協議会委員の皆様のお思いとかという部分もありましたので、表紙の裏にかがみ文みたいなものをつけさせていただいたところですが、会長のから会長案も出たところで、本当はこの部分はもう落としちゃってもいいのかなという思いがあるんですけども、会長案と多分思いは同じ、そんなにずれはないと思うんです。

私どもが作ったものは、どっちかという非常に現実的な要素が多い部分で、会長がお作りになられたのは、それプラス将来像といますか、もう少し理想に近いものがあるのかなというものはあると思うんですが、向かっているところはそれほど違うところはないと思っていますので、できれば私どももこれをうまく、資料集というのではちょっと違う

かなという思いもあるんですけど、うまく融合させていくとか合体させていくという形で、1つの形に落ちつかせたいなという思いはございます。

【田中会長】 ということ、これをこのままつけるわけにもいかないですし、ちょっと悩ましいかなと思っておりまして、忌憚のないご意見をいただいて、最初に作った素案と答申案、私がつけてきました答申案とうまいこと合体できるのかできないのかちょっとわからないんですけども、そういうことについてどうかなというご意見を皆さんからお聞きしたいなというふうに思います。

【坂野委員】 この種の素案は、私はやはり必要だと思います。というのは、今後、市議会含め議論していくわけですので、相当細かく詰めました、議論しましたという実績が必要です。例えば図書館の在り方でフロアの機能も書かれておりますが、ここではまだ議論していませんけれども、こういうふうに諸点をカバーして議論を尽くしたという実績が必要なので、その証左、証拠として答申の中に入れるということをご希望したいなと思います。

ほかのところも前期のメンバーの方、船崎さんから提案があったところとか、重要なものがありますので、そっくりそのままとは言いませんけれども、詳細な議論を尽くしたという観点から入れたほうがいいものはぜひつけるべきだというふうに思います。

【田中会長】 水谷さんは初めてこれを見るので、おおっ、と思うかもしれませんが、図書館のことについては、先ほど教育長がおっしゃっていましたが、建てなくてはいけないうという認識は皆さんお持ちですけども、どこにいつという、全く何とかしてもらいたいと思う中で、だからといって、坂野委員からありましたけれども、具体的なこともないと、じゃ、ここにいきましようといった時に、理想論だけでは進まないところもあるみたいな微妙な。

【菊池館長】 少し話がそれちゃうんですけども、素案の更新をしながら思っていたんですが、毎回委員の方からお話いただいているネットワークの部分が少し薄いかなどいうのはありました。中央館をどうするんだとか、分室をどうするんだとかという話が出ていますけれども、そこは総体として見ていかなくてはいけないなというのがあって、図書館ってどんなに大きくても1館では動いていかない施設なんです。市の中でネットワークを組んで、利用者が使う窓口が出口になって市民サービスをしていく。市の中でも完結していかなくて、その後ろには近隣市がありますし、東京都がありますし、国会図書館が控えているしという、そういう、常にいろんなつながりを持って動いていきますので、もちろん今の小金井市の状況を考えると、今の図書館規模が十分とは言えないんですけども、何かそのネットワークをもっとうまく使って進めていく方法も考えていかなくてははい

けないのかなというところは、過去のご意見の中にもありましたので、その部分をもうちょっと入れていけばいいかなというのは、会長の素案の中にも入っていらっしやいましたけれども、入れていくべきじゃないかなと私は思ったものですから、また次作り直す機会が、これがまだ素案なので、次の時にはそういったところも入れていけばなというふうに思っています。

【大友委員】 今、ネットワークというお話があったんですけど、この素案の中にもう少し、私もやっぱり具体的な部分がプランとしてないと、素案になっていないのかなという感じがするんです。ほかの区市町村の、先ほど会長さんから、中央図書館があり、分室がミニ中央図書館みたいなものを使っても意味がないということで、特化した形でネットワークを組む必要があるというお話があったんですけども、もう少し、何か具体的に小金井市に合ったネットワークのあり方とか、もうちょっと細かな部分が盛り込まれる必要があるのではないかなと思います。何となく漠然としたものが多いかなという、学校との連携とかは以前から書かれているんですけども、実際にはどうかなみたいな感じもありますし。私が今まで勤めていた区だと、もちろん建て替えということと連動しているんですけども、分室がある学校の中にあったりするんですよ。

【石田委員】 学校の？

【大友委員】 新しく学校が建てられた中に、分室が学校の中に入っていて、その部分は地域の方も使うし、生徒も使うし、みたいな感じで中央図書館とリンクしているような、そんなようなすごく理にかなっているのがあったので、そういう何かこう、小金井の場合だったらこういうのがいいんじゃないかみたいなプランがちょっとでも盛り込まれるとすごく実感性があるとは思うんですけども。

【吉田委員】 大友委員のおっしゃったこととほぼほぼ同じなんですけれども、第4章の本市の図書館のあり方という総括的な部分ですね、この部分にやはり田中委員の案みたいなものがうまく入れればいいかなと思うんです。というよりも、この第4章が一番大事であって、これがベクトルなんです。この方向を目指しますというベクトルなので、もしこれが4章に入ったとすれば、概要版というのを作って、答申概要みたいなものを最初に持っていったらいいというのはよくあるんです。答申の全体は確かにうんちくが多いんですね、昔からこういうふうになっていました、みたいな。そういううんちくもいいんだけど、うんちくの前に全体としてはこんな方向で出していますという、その概要版を出すといい。その概要版が田中委員の、つまり4章の中にそれをうまく入れていただいて、やっぱり僕たちが話し合ったことが本当にこのとおりなんです。中央図書館の機能の問題、それからネットワーク化の問題、それから今おっしゃったように、私も学校が図書館の分館とい

うか、特色ある分館になっていくというのもあり得るだろうというふうには思っていますし、そういうネットワークをより多く強化していくと。

それから、それぞれの分館が、小金井って非常に小さな市ですので、交通の便も悪くないわけだから、そういうところであちこちに行けるということを考えると、やっぱり少し先のことを考えると、特色ある分館を作ったほうがいいだろうと。そうすると、本館がうんと大規模なものに、武蔵野みたいなものにならなくても済む訳だし、どのみちそういうふうにはならないだろうということですね。その間をつなぐためのサービスみたいなものがやっぱりクオリティーとして向上しなきゃいけない。だから、この3点が僕はすごく大事だと思うので、4章の中にうまく合体させて、その4章の部分を含めて概要版をつくるというのを僕は提案したいなと思っています。

【石田委員】 15ページの中央図書館についてですが、延床面積を4,000平米とした、4,000、2,000、3,000と3つも列記する必要があるでしょうか。例えば渡辺議員的には3,000平米と言っているけれども、4,000がいいと、私は以前にも言ったことがあるんですが、大きいものをぶつけておけば、実際つくる時に減らされると思うので。ですから4,000平米のだけで、2,000、3,000と列記する必要はないのではないかなという気がするんですが。

【田中会長】 何かありますか。

【坂野委員】 今の石田さんのご意見、4,000平米の是非は前期にも一度話したことがあると思うんですが、私は4,000平米には反対です。というのは、図書館の理念というものを全然検討せずに、そんなふうに倍にするのはどうかということです。また日本で4,000平米を超えている図書館というのは、文部科学省が去年の2月に行ったアンケートでは2,400館のうち百二十いくつなんです。わずか5%ぐらいなんです。そんな状況なのに何でこんな人口12万人しかいない、財政余裕の少ない市で4,000平米をつくるんだらうか思います。

それから運営費の視点から見ると、現在の本館の光熱費だけで年間450万円ぐらいかかっています。それが倍の面積になるとおそらく500万ぐらいに増えるわけですよ。この増える金は一体、毎年どこから出てくるんだらうかと考えたら、4,000平米というのは小金井にふさわしいんだらうかと常々思っています。ですから、仮に1つの案を提示するとしても、十分たたいて検討しておかないといけません。さもないと数字を挙げた瞬間に、これは市議会の方含め多くからそれこそたたかれると思います。しっかりこれだという意見、これだと小金井で運用していけるという意見を出す。もし面積案を挙げるのであれば、こうやって3案を並べてというのが1つの手かだと思います。

【菊池館長】 中央館の議論をかなり前からいただいているんですけども、実際、こういう言い方をしているのかあれですが、建つと決まっているわけでもないところで、あとは土地の候補もあるわけではないというところの中で、図書館を何とかしていきたいという思いと、その方向性に向いていることは確かなんです。ただ、4,000とか5,000という数字だけでいくと、そうしますと、協議会としては4,000なら図書館は要るけれども、それ以下だったら要らないんだねという、たしか前にもお話しさせていただきました、そういう方向性に走りかねない。そうすると、いろんなパターンとして、さっき吉田委員からもお話がありましたけれども、分室を充実させることで、もしかしたら中央館の規模は抑えられるのかもしれないというところの検討がちょっと外れてしまうのは惜しいかなというところがありますので、まだこの段階では載せておいたほうがいいかなと思います。

【石田委員】 わかりました。

【鴨下委員】 広さが平米がどうこうということではなくて、やはり今から建て替えるということは、今後30年、50年使っていく図書館を作るという視点でやはり答申をしなければいけないと私は思いますが、その中で、今まで出てきたようなインターネットが使えるようなスペースが欲しいとか、YAが集えるような場所が欲しいとか、色々なサービスを、障害を持っている人に対するサービスが欲しいとか、そういうことを網羅していったらどれだけになるのかというふうな視点で答申するのが私は大切なんじゃないかと思えます。その一つ一つがあまりにも狭くて使いづらくなるようでしたら、やはりそれは広げなきゃならない。

例えば今の図書館は二千いくつですよ。その結果どうなっているかという、ほかにもないような図書の配架の仕方がされている。普通は本のあいうえお順とか分類別ですけども大きさで決めている。私達は使いなれていますがけれども、初めて来た人は一体、どこに何を探せばいいのかさっぱりわからないというような、それは狭さゆえにああなっている。閉架も少ない。ボイラー室までが閉架の書庫に入っている。そういう現状を打破するためには、一体どのぐらいの広さの図書館が必要なのかというふうには私は検討して出していく必要があると思えます。そのためにはもう少しこの議論は煮詰めなければいけないと思えます。やはりせっかく作ったのに、図書館協議会から出した案のとおり作ったのに、何だ、こんな図書館だったのかというのはやはり私はやめていきたいと、一図書館協議会委員としてはそういうふうには思っています。

あともう一つは、学校と一緒に複合で建て物を活用することを試行している自治体もあるようですが小金井市としては学校を建て替える計画は全然なくて、今、学校教育は1つ

の教室があれば授業ができるというのではなくて、色々な授業で、習熟度別に教室をたくさん使っていたり、現在、小金井市の学校では空き教室というのは無く、もう色々な教室が潰されて潰されて教室にされている。資料室も、会議室もなくなったりしています。そういう現状の中で、複合というような答申を図書館協議会で出すのが、果たして小金井市の中でいいのかどうか、とても学校現場から反発が来るのではないかと思います。

私はここに田中さんが書いた、全ての図書館に本館と分室と同じ本を持つ必要はないのではないかという、この表現はちょっときつ過ぎると思います。それよりも、各分館の独自性、個性化を進めていきながら、総合的に小金井市全体として図書館機能をアップしていくというような書き方のほうがいいと思います。というのは、やはり同じ本があって私達は助かるのです。小金井市に1冊しかないというと本当に困ります。その本を誰かが借りていると、もう全然使えないので、やっぱり必要な本は各分館そろえろとか、その中でも個性化を図っていくという、そういう方向性というのが私は小金井市にとっては必要なんじゃないかなという気がとてもしています。もう少し議論を深めて、一つ一つについて深めていただきたいなと思います。

【田中会長】 例えば建物、あるいは敷地面積というか、そういうものに関しては、積み上げ方式で、この機能のためにはこれが必要だという、積み上げていったらこういうふうになりますよというある種の考え方ですけど、私もよくわかりませんが、教育長が図書館協議会の答申を受けて、まるで図書館協議会が答申すると建つみたいな表現をちょっとしていましたがけれども、あるいは、変な話、議会に対して図書館協議会の答申を待っているという言い方を先ほどからしているんですけど、何か違うんじゃないかなと思っています。

というのは、私達もこういう図書館がいいんじゃないですかとか、こういうふうな方向でいってほしいなという思いがあるんですけども、じゃあ、それをどこがやりましょうというか、教育長がやりましょうというか、だから、どういう図書館を作ってくれとかいうのがあって諮問があるのかなと思うんです。何だかよくその辺が曖昧模糊というか、こっちに答申を求められているんですけど、じゃあ、出したらそのとおりになるかということにならないんでしょう、きっと。ぶっちゃけた話をしているわけなんですけど。

【石田委員】 平成33年に新庁舎をつくったら、そのころから図書館をというようなニュアンスで私は受け取ったんですけどね。

【田中会長】 それは私的な意見だと私は言いましたが、出さないことには始まらないというのか、具体的な数値を出すことによって、図書館長がおっしゃいましたが、それが逆に首を絞めちゃうのかみたいな。

【鴨下委員】 実は、私、そこにも書いてありますけれども、小金井の図書館を考える会というのに二、三年前から関わっているのですが、厚生文教委員とか、ほかの議員とか、懇談する機会があったのです。皆さんおっしゃるのは、やっぱり図書館のことが話題になっているのです。小金井市の中で。なぜかという、合同庁舎を作る中で図書館だけが外れたので、じゃあ、外した図書館は一体どうなるのというのが、やはり関心ある議員からもたくさん出ていまして、それに対して、議会では、今、図書館協議会に諮問していますので、その諮問を待つてというお答えを、本当に必死でしていただいているようですね。私もそれを聞きまして、あれ、私達が出す答申ってちょっと大変だなと思ったわけです、実は。

【石田委員】 そんな雰囲気でしたね。

【鴨下委員】 そうですね。ですから、変な意味、図書館協議会で2,000って言うているから2,000でいいじゃないかって2,000の案が通って行ってしまっは、私としてはちょっと困るなという気持ちがすごく、その時思いました。

【坂野委員】 私は違っていて、図書館協議会委員の意見を待っています、でいいと思います。図書館協議会は館長の諮問機関に過ぎませんけれども、ここでやはり行政が、通常の行政の職員の方が、気づかないものを議論させていただく、この議論はかなり自由にできていますので、これを決めるのは教育長ですけれども、議論をさせていただくと、それが参考にされる、だから参考にする資料がない段階で判断できない、これは私としては筋が通っている話だと思えます。ですが、さっきも言いましたけど、これでやってくれという結論でも、議論が委員間でこう分かれましてという結果でもいいかと思えます。

【中里委員】 私は今のお話を伺うと、鴨下さんの、大きさについても、これだから4,000が必要というのは大変重要かと思うんですけども、年四、五回の協議会で、作業部会などがある訳でもなく、研究や色々な情報等を正確に盛り込めるのかなという不安があるんですね。ですから、コンセプト、理念、そういうものはこの会議で当然積み上げていけるかと思うんですけども、細かなことは、答申がひとり歩きするとして、そこまで専門知識もなく、データもどこからか上がってくるものを審査しているわけではないので、現実問題としてどういうふうに進めていったらそれができ上がるのかという不安があります。

【菊池館長】 答申が出たものがそのまま即そこへ行くという訳ではないんですけども、行く訳ではないという言い方は変なんですけれども、その時に、答申が生かされるようにしたいという思いはすごくあるんですね。ですので、先ほど言ったみたいに、ここで2,000でいいんだという縛りをしてしまうのもあまり良くないと思うんです。まだ何も見

えてない中で、逆に4,000しか道はないんだというふうになってしまうのも良くないと思うんです。

そういう意味で、選択肢がある内容でお作りしてきた関係なので、これから実際にもし動き出していけばどんどん話は細かくなっていくと思うんですけれども、答申の段階では色んなアイデアが、小金井の場合はこんなことが考えられるよというところでいただければというふうに、それが過去の答申ではやはり、市内に6館あればいいよねという理想論の域を出なかったところがあるんですが、そこをもうちょっと掘り進めていただいて、そうなんだけど現実的にはこういういろんなアイデアもあるんじゃないということも出していただければと思います。

【田中会長】 はい。

【大友委員】 「市民のニーズに沿った」という文言が入っているんですけれども、実際に小金井市民のニーズというのはどんな状況だというのは、何かまとめられた部分は今まであるんですか。

【菊池館長】 今回のものを作るに当たって、市民アンケートをとりましょうという話も最初のころ、こちらから提案させていただいてあったんですけれども、この段階でアンケートをとってもなかなか難しいものがありますねという話が出て、アンケートが本当に必要になった時にとりましょうということで、今まで来なかったので今回落とさせていただいたんですけれども、市で公共施設のアンケートをですね。

【坂野委員】 去年の7月ですね。

【菊池館長】 公共施設等に関する市民アンケート調査というのをとっています。一番使われている公共施設は図書館となっていて、ご意見も色々あります。どんなものを求めますかというところで、蔵書数やサービス内容ですとか、そんなものが上がっています。やっぱり近隣市と比べて狭いですとか、閲覧室がないですとか、カフェとかが欲しいとかいう案もございますので、これが実際建設に動き出せば、市民の方が何を望んでおられるのか、もうちょっと細かいアンケートとかとっていかなくちゃいけないのかなと思っています。今現在、この段階でとってこれ以上のものはなかなか得られないのかなというところはあります。

【大友委員】 どういうふうになっていくかというのが全く見えていない状態でなかなか難しいとは思いますが、今日は吉田委員からも最初に話がありましたけど、今どきの小学生、中学生、高校生ぐらいになるとペーパーで読むという感覚じゃなくて、デジタルな形で読書する子もたくさんいますよね。例えば、図書館のあり方もそういう方向性に行くということを若い層は非常に望んでいるかもしれないですし、そういうところが

やっぱり、これからのあり方というのは、本当に狭いスペースでいかに効率よくということとで考えていく時は、そういうニーズ調査をしないと意味がないんじゃないかと。ただ蔵書数が少ないとか、狭いだとか、それじゃ全然ちががあかないんじゃないかなと。もうちょっと具体性が必要なんじゃないかなと思うんです。

私も実際子供たちに調査した訳じゃないですし、図書館からも出されていないと思うんですけど、実際中学生がどれぐらい図書館に行って本を借りたりとか、閲覧室で見たりということが見えてないんですけれども、多分時代の流れとか、実際に自分たちの興味関心とはちょっとずれちゃっているところがあって、小金井市の図書館という部分では。そんなようなこともあって、そんなところも大切にして、市民のニーズとして捉えていく必要があるし、そういうふうにしていただけると学校現場としてはありがたいかなとは思っているところです。

【藤森委員】 今、大友委員のおっしゃったような、世の中がデジタル化しているということに関して、図書館がそれに沿っていくべきか、図書館は図書館として本を守り続けるというスタンスをとり続けるか、それも少し議論する必要があるのではないかと。やっぱり本の良さというものがどんどん失われていく風潮があるので、私なんかは古い人間ですので、それをちょっと嘆かわしく思っているようなところがあります。ですから、安易にデジタル化に進んでいくことが果たしていいことなのか、悪いことなのか、それは図書館を建てる上でもう少しみんな考えて、もちろん全く反対というわけにはいかないと思います。

それと、小金井市は狭い、人数も少ない市ですけれども、100%の人が満足する図書館というのはできないと思うんです。ですから、小金井市の特徴というものを、どういうところをピックアップして図書館を建てるかということもやっぱりもう少し話し合う必要があるのではないかと思います。過去と現在と未来と全部を考えあわせて建てて、別に小さくてもいいと思うんですけれども、やっぱり全ての人が満足、それこそカフェをつくるとか、色々意見がありますけれども、そういうものまでも全部受け入れる必要はないと思います。

【吉田委員】 どこの地区も、今、私が社会教育をやっている町田もそうなんですけれども、一体どういうふうな図書館にするのかといった時に、1つのヒントとしては、やっぱり多様なものかもしれないですね。だから、図書館というのが、今までの我々のイメージや概念だけで考える時代ではなくなっているなというのは思うんです。

私、小金井でこれができるとは、日本でできるとはあまり思っていないんですけれども、昨年3月にとある高校に行ったんですけど、その高校は全部図書館がコンピューター上

にあってデジタル化しちゃっているんです。ウェブ上に図書館があるんです。これはものすごいことで、日本では全然考えられないんですけども、実際には図書館が全ての教材を管理していて、子供は図書館にアクセスをして、IDとパスワードを入れて中に入ると、今、例えば、この時間でも授業をやっているとすれば、その授業が世界のどこでも見られると。蔵書も世界どこでも見られるという形になっているんです。

日本はICTが非常に遅れていますので、そこまでなることはあり得ないんですけども、しかし、10年後とかを考えると、何が起きているかわからないし、例えば今配送の問題とかすごくお金がかかったりしているんですけども、コンピューターによって自動運転する車が各分館を回って、それぞれ置いていくとかいうようなことが全く夢じゃなくできていくような時代なんですね。そういうふうを考えていくと、今までの我々の概念だけではちょっとおさまり切らないような部分もあるだろうなと思います。

それから、僕はその先のことまであまり考えられないという部分もあるんだけど、やはり、少なくとも私は、今、田中委員の案を見た時に非常にバランスよくできているなと思ったんです。平米は、もちろん大きければ大きいほどいいわけです。それは図書館の蔵書だけの問題じゃなくで、ラーニング・コモンズみたいな問題も出てくるわけですから、それは大きければ大きいほうがいいわけだけでも、最終的には何らかの形で妥協せざるを得ないわけだから、その部分よりも、むしろ我々の方向性やコンテンツみたいなものを十分に出していくほうが大事なかなと思っています。

もうちょっと話すと、今、中学校と小学校は図書館の使い方や読書に対する考え方が全然違うんです。小学校は非常に読書活動も読書も盛んですけども、中学校は、私も中学校の教員だったからわかるんですけども、先生自身も含めて図書館とか読書についてあまり熱心じゃありません。校長先生の前で言うのは申し訳ないですけど。

実際に、さっきの進捗状況を見ましても、指導室がいろんなことを言っているにも関わらず、読書計画を持っている学校なんていうのは、小学校は多いけれども、中学校はとっても少ない状況なんですね。ですから、読書離れとか、文字とか、そういうことを学校がやるためには図書館協議会がもっと支援していかなくちゃいけないだろうなと思うんですが、どちらかという、図書館協議会は社会教育側ですので、学校教育については何も言えないということになっているわけです。ただ、いつまでもそうではないだろうなと思います。

ですから、本当は中学校段階の図書館というのは、多分分館と同じような性質を持ってそんなに大きく異なっていないんじゃないかなと思います。ですから、そういうことも踏まえて、我々の方向性等をきちっと出していく必要はあるかなと思っています。

【坂野委員】 議論がどうしても広がって時間を使ってしまうので、ここでの議論

をまず施設の広さに係るものに集中しませんか。確かにタブレットは大切ですが、それで施設の広さをたくさんとるわけじゃありませんし…。

それから、理念に関する事項も検討していませんけれども、ちょっと時間がない中で簡潔にでも触れたいと思います。まず、中央図書館というのは、皆さん多分頭の中に全然違うイメージが入っていると思いますので、ちょっと気をつけたいと思います。中央図書館という言葉は、図書館法等の法律の中にありませんので、皆さん同床異夢だと思います。ここははっきりさせていただかなきゃいけないでしょう。

それから、先ほど中里さんの意見、私も賛成です。非常に細かいものは作れないですけれども、先ほど館長がおっしゃってくださった公共アンケート、これ、回答の中身を見ますと、実は6割の回答者が図書館を利用していないんです。また中にはアンケートをまとめた市役所の方が、図書館に対する声というので「不要」、「なくともよい」というのをわざわざ拾い上げているんですね。我々が説得しなければならないのはまずこの人達なんですよ。回答者五百数十人のうちの6割の利用していない人に利用してもらうことです。そのためにやはりこういう設備等がほかの図書館のように必要だとかいうのを積み上げて意見をまとめていくという方法で答申をつくりたいなと思っています。

ですから、理念についての話を本当はもっとやりたいんですけれども、時間がないので広さに関係あるものに議論を集中したいということです。

田中さんのつくられた素案、ありがとうございます。非常に読みやすく好きなんですけれども、ただ、20カ所ぐらい疑問点があります。言葉の中身です。それをちょっと討議する時間を私としては欲しく議論が続けられればうれしいなと思っております。

【田中会長】 時間が参りましたのでまとめたいと思います。

まずは私が出した答申案、前も言いましたけれども、めった斬りしてもらって全然構わないので、それはそれでいいんですけれども、これと、先ほどからありますけれども、素案のほうをうまく合体させるというか、組み合わせをして、数字的な資料のついた答申案にしたいなと考えていますけれども、この点はいかがでしょうか。

(「賛成」の声あり)

【田中会長】 ありがとうございます。

それで、一応3月末までに答申をしたいということになりますので、今後のスケジュールを考えますと、会議の回数というのはどのようになるのでしょうか。

事務局の方、ちょっと聞きたいんですけれども。

【菊池館長】 9月補正が通りましたので、今日も含めて4回は確保されています。今日が1回目、2回目が後でお話しします今月末にあります三者合同会議、あと2回分はあ

りますので、ただ、12月が議会月なので予定としては1月になるかなど。で、もう1回というふうな形で今のところ予定しています。

【田中会長】 では、こんな感じになるんですか。例えば、今日一緒にしたような素案をつくりましょうということになって、次はできませんので、1月ぐらいいあわせたようなものを皆さんに提示して、そこでもんで、2月ぐらいいもんだものをもう一回つくりなおして、そこで大体決定すると。

【菊池館長】 はい。できればいいなというところですけど、その回数ももう一回ぐらいい挟みたいともしかしたら話が出るかもしれないですね。

【坂野委員】 それはほかの委員会、ちょっと今思い出せないんですけど、行財政委員会かもしれないんですけど、有志が集まって無報酬でやろうと決めてやって、相当大部な答申をつくれた委員会があったと思うんですよ。そういう形でできないんですか。予算に縛られて回数を4回でまとめるというのは難しいかもしれないので。したがって、これは協議会委員の中の話になるんですけど、無報酬で時間をとって、ひょっとしたらメールのやりとりで済むかもしれませんけどね。そういうふうな検討方法はとれないんですか。前例はありますので。

【田中会長】 私がそれをやりましょうというわけにもいかないんですけど、このようにさせていただけますか。まずは、次回、三者懇談会が終わった次の会までに大筋ができていますんですけど、つくり込んだやつを提示して、もう一回では終わらんということであれば、そういうワーキングを作って、それをもう一回つくり直して2月に出すと。それでもだめだったら3月にもう一回やるという算段でいかがでしょうか。

【坂野委員】 ということは、いろんな議論はあくまで協議会の場で行うということですか。

【田中会長】 そうですね。それで納得ができないというのであればワーキングをつくるという手もあると思いますが、大筋そこで合意ができるようであれば、また次へ。一回ではとても決められないとは理解していますけど。

【坂野委員】 いや、時間の間隔を置くというよりも時間が足りないという話だと思うんです。1回が2時間だと限られているので、今日もそうですけど、ここで打ち切って次回となると、1回目の討議がずっと2回、3回蒸し返されて続いている感じなので、例えば1回でも時間無制限でやるとかであれば、別ですけど。

【田中会長】 でも、そういうことは私としてはやりましょうとは言えませんので、ある枠の中でとりあえずは解決しようと思うんですけども。

ですから、一度こちら側に引き取らせていただいて、1月に出すと。それに対して、や

っぱりもっと集中審議が必要であるとかいうのであれば、またそこで坂野さんのご意見等も伺いながら進めてまいりたいと思いますということで。

【坂野委員】 そしたら、効率化するために、田中さんの案に対する、これをもとにしますけれども、対案を出しましょうか。

【田中会長】 別にそれは構わないんですけれども、でも、坂野さん、今それをするとまた…。

【石田委員】 始めに戻りますね。

【田中会長】 こうなっちゃうので、そうすると素案を、これと今合体して、ですから、文章の中身については、私も言いましたけど、直していただくのは全然構わないので、もう一回ここに入れ込んだやつで。

【坂野委員】 それでやります。内容的に明確化し精緻化する方向での対案にする…。

【田中会長】 そうしないとまたやらなくちゃいけないので。

【坂野委員】 いや、全面的に書き直すつもりはないですけど、やっぱり質問はかなりありますので、この文章に沿いますけども、削除したり、疑問文をつけたりして私案提示したいですが…。

【田中会長】 いや、ですから…。

【中里委員】 これは答申として書いて出すものですから、やはり公の場で討議することが必要だと思うんです。

【坂野委員】 それはわかってますけど。

【石田委員】 だから、田中さんの意見に対して、ここの表現の仕方がどうというよりも、趣旨が合っていれば私達はそれを飲んでいくべきではないでしょうか。

【坂野委員】 その趣旨がわからない点が20カ所ありますので、それを明確にしたいということです。わからないんですよ、本当に。

【吉田委員】 とりあえずこれを文書の中に入れ込むと。

【石田委員】 そう。読んで、中に入れ込んで。

【吉田委員】 一通り入れ込んでからその議論をしてもいいんじゃないかなと思うんです。とりあえず2つに分かれているとどうしようもないので、4章にこれを入れちゃう。それをまず最初にやってもいいんじゃないですかね。

【坂野委員】 だけど、時間の問題がありますね。1回でそれをやるとしたら、時間を十分とるということになるかと思います。

【田中会長】 ですから、それが出てからお話をしたいと思います。それじゃだめですか。

【中里委員】 いいと思います。

【坂野委員】 出てからというのは？

【田中会長】 出てから。もう一回これを作ったのをお渡ししますので、そこはこうしてほしいとか、ああしてほしいとか、この文章を入れてほしいという話をしたいと思います。

【坂野委員】 わかりました。1回待ちます。

【田中会長】 議論が沸騰しましたがけれども、それだけ皆さんの関心もあるし、大切なものだと思います。

以上で議題は終わりですけれども、何か。

【菊池館長】 すいません、お時間押しまして申し訳なかったです。

先ほど子供読書のところでYAサポーターについてご質問がいくつかありましたので、わかりましたので補足させていただきます。

1年間で更新します。登録用紙が置いてありまして、随時いつでも参加していただける形にしているそうです。「KITAMACHIユース」という貫井北分室で作っています刊行物とか、館内ポスターやホームページで常に募集をしまして、現在登録人数19人のサポーターが活動しているということでございます。補足させていただきます。

時間がないので続けてですけれども、この後の11月29日の三者合同会議なんですけれども、今日、公民館から開催通知が届きました。今日お配りすることができなかったので、至急メールで出させていただきます。

場所はこの上の801会議室です。11月29日、水曜日の午前10時から11時半。またきちんとメールで送らせていただきます。

(三者合同会議開催日時等について質疑応答)

【田中会長】 では、時間過ぎましたけれども。

【菊池館長】 すいません、承諾書を机の上に置かせていただきましたので、置いてご退席いただければと思います。あと、委員の方は口座振替の依頼書をお持ちでしたらお願いいたします。

【水谷委員】 すいません、1月の日程というのはいつごろ決まるんでしょうか。

【菊池館長】 なるべく早いうちに日程を調整したいと思っています。11月中に調整してしまったほうがよろしいですか。

【石田委員】 はい。そうすれば、予定が入っていても変えられるものがあれば変えます。

【菊池館長】 わかりました。

【田中会長】 わかりました。

では以上で会を閉じたいと思います。本日はありがとうございました。

— 了 —